

コミュニティ

community
The New Apostolic Church around the world



2022(令和4)年第7号



(アメリカ訪問)

神は眠らない!.....2

(ヨーロッパ訪問)

貧しい人たちへ.....3

(ニュース)

教役職、女性、聖書.....5

(nac.today)

会衆の中で会衆のために.....6

手本から学ぶ.....7

洗礼以上のもの?.....7



日本新使徒教会

神は眠らない！

主を見上げることは、魂の救いに与る際に、私たちができる最善のことです。これは、この世の苦しみに終止符を打つだけでなく、永遠の救いをもたらすものです。主使徒がこのことをはっきりと立証しています。



アルゼンチンの再訪問が、ようやくかきました！ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は18か月にわたり、アルゼンチンの会衆を訪問しようと何度も試みましたが、コロナ禍でいつも頓挫していました。2021年11月、ついに、ブエノスアイレスで礼拝を行うことができました。

主を詣（もつ）でる時は、目を上げる必要があります。旧約時代、高山は神様が住まれ、人々が神様と相まみえることのできる場所として、崇（あが）められていました。アブラハムは息子イサクをいけにえとして献げるために、山に登りました。エルサレムの神殿は、丘の上で建てられました。

救いは上から

こんにちまで多くの人が「救いはどこから来るのか」という疑問を抱えてきました。このような人たちは、特殊な状況にどうしたらよいか分からず、問題の解決策を見出せず、助けてくれる人もいません。

これを変えることができます。つまり「神様ならすべての人を助けることができるし、神様も『そうしてあげよう』とお望みだ」ということを、私たちは信じ、またそのことを宣べ伝えます。神様は全能なるお方です。できないことは何一つありません。イエス・キリストは悪と死に勝利されました。悪も死も、もはや救いに至る道の障害にはなりません。神様は眠っていません。一人ひとりの運命をご存じであり、彼ら

の苦しみを共に苦しみ、必ず救いを得させていただきます。神様の救いは、人々の苦しみを終わらせたり、苦しめられてきた悪を償（つぐな）ったりするだけではありません。神様の目的は、人々を、ご自分の栄光、ご自分との永遠の交わりに導くことなのです。

見上げよ！

救いを得るためには、神様を見上げなくてはなりません。神様を見上げ、畏（おそ）れる人は、自分が神様の恵みに頼っていることを自覚しています。ヨブは、神様の御旨に従い、救われました。モーセがイスラエルの人々を救うために造った青銅の蛇（へび）を、イスラエルの人々は見上げなければなりません。神様の救いは、人々から蛇を取り除くことではなく、神様の御言葉を信じた人を癒（い）すことにあるのです。イエス様は、この青銅の蛇は自分が十字架で犠牲となること前もって示すものである、と説明されました。人間が罪に堕（お）ちて以来、悪は人間を支配し、苦しめています。また神様による執り成しは、この世を変えるためのものではありません。神様は私たちに、イエス・キリストを見上げなさい、と言っておられます。キリストを信じる人は、悪から救い出され、永遠の命を得ることができるのです。

聖書にはもう一つの例が書かれています。初代の執事であるステファノの話です。ステファノは福音を宣教したことで逮捕され最高法院に出廷させられましたが、彼はその時天を見上げました。彼には神様の栄光が見えました。神様の栄光を見たことによって、ステファノは力を得、絶命するまでキリストに忠実であり続け、自分を殺す人々を救うことまでできたのです！私たちが苦難に遭っている時は、自分の苦しみやそれを引き起こしている人たちに集中しないようにしましょう。そうではなく、聖霊が鼓舞することに従い、神様を見上げましょう。そうすれば、聖霊が神様の栄光と、神様の臨在と、神様の約束をはっきり示してください。

ブエノスアイレスでの週末

ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は週末をブエノスアイレスで過ごしました。2021年11月5日、アルゼンチンのエ

キメニズム教会協議会の代表と会談を行いました。この教会協議会に、新使徒教会は2018年から正会員となっています。その後主使徒は、青年たちとのインタビューを受けました。土曜日の朝は、エンリケ・ミニオ教区使徒の管轄地域に所属

するすべての現職の使徒と監督と、会合を行いました。主使徒はこう言いました。「互いに直接顔を合わせることでできた喜びは、全ての人の表情に現れていました。マスクをしていても、それはわかりましたよ。」

まとめ

詩編 121 編 1～2 節

**私は山々に向かって目を上げる。／私の助けはどこから来るのか。私の助けは主のもとから
／天と地を造られた方のもとから。**

私たちは神様のところに、心を謙虚にして、聖性への尊敬に溢れつつ参ります。イエス・キリストが救い主であることを信じます。聖霊は、神様の栄光と臨在と用意されている救いとを明らかにすることにより、私たちを力づけてくださいます。

貧しい人たちへ

イエス様がおいでになったのは、悪から私たちを救い出すためです。この世を離れる時、イエス様は使徒たちに、自分が語ったことをすべての場所で伝えなさい、と指示されました。そしてこんにちにおいて、イエス様の愛を証しするために、キリスト者一人ひとりがイエス様から遣わされているのです。



シナゴグ〔会堂〕に入ってきたこの人は、子どもの時から皆が知っていました。彼の父親はしがない大工でした。この人は聖書を朗読しようと立ち上がり、預言者イザヤの巻物を受け取りました。そして、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げるために遣わされた者について書かれている箇所を見つけ、この人は急に、自分が神から遣わされた者である、と言い出したのです。当初、人々は興奮していましたが、その興奮が憤りに転じました。「あの人が神に遣わされた人のはずがない。どうしてそんなことがあり得るのか。我々は奴が大きくなるのを見てきた。」人々は怒り

狂い、この人を殺そうと企てました。しかし神様がそれを阻まれました。幸運にも、この人こそがイエス・キリストだったので。イエス様は、貧しい人、苦しんでいる人、捕らわれている人、目の見えない人に良い知らせを届けるために自分はやって来た、と仰せになりました。ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は、この聖書物語を、2021年10月17日、フランスのパリにいる兄弟姉妹と、これにインターネット生配信でつながっている会衆に届けました。

イエスは救い主

イエス様は貧しい人、無視されている人、低くされている人、謙遜な人のところに行かれました。なぜでしょうか。神様が罪に苦しんでいる人々を解放しようとされているためです。罪によって引き起こされた罪の苦しみから人々を、死に打ち勝ち、神様ご自身との交わりに導くことによって、人々を救い出そうとしてくださるのです。そこでイエス様は、何よりも罪に苦しんでいる人々に寄り添っておられました。

イエス様がおいでになったのは、社会に大変革をもたらすた



めではなく、人々を罪から救い出すためです。しかもイエス様はこのことを、人間による介入がそう多くない方法で実行されました。救われるためにはいくつかの条件で十分でした。それは、謙虚であること、罪に縛られているという自覚があること、神様から離れていることに苦しみを感じていることです。難しいことではなさそうですが、多くの人たちには難しいことでした。神様から遣わされたお方は受け入れられませんでした。しかしイエス様はやめませんでした。人類に対する働きをあきらめませんでした。

神から遣わされた使徒

イエス様は、御父の御許にお帰りになり、何をなさったのでしょうか。使徒をお遣わしになりました。使徒たちは、聖霊を携え、出て行って全く同じことを宣教しました。使徒の使命は全く同じでした。つまり、よい知らせを宣教することです。こんにちその良い知らせの言葉は、イエス様の教会に満ち溢れています。キリストは貧しい人、罪人、虐げられている人、病人、失意にある人を救い出そうとしてくださいます。ここにイエス様がおられるのは、皆さんに救いをもたらすためです。以上が、こんにち主イエスによって遣わされた使徒たち

が宣べ伝えていることです。

イエス様は死を通してすべての人に語りかけてくださいます。特に、罪の結果に苦しんでいる人に語りかけてくださいます。だからといって救われるために不幸せでなければいけない、貧しくなければいけない、不利な立場に置かれていなければいけない、などということはありません。使徒は全ての人に向けて宣教します。病人にも健常者にも、貧しい人にもお金持ちの人にも、若者にも年長者にも、男性にも女性にも子供にも、使徒たちは語りかけます。使徒が伝えていることを受け止めるための条件は、イエス様の時代と同じです。当時と同じ心の姿勢、同じ謙虚さが必要ですし、自分が神様に依存していることを自覚し、神様に近づきたいと思う気持ちが必要です。

…そして我々は

このことを伝えるために、神様から遣わされた主はおいでになりました。このことを宣べ伝えるために、イエス様から使徒たちが遣わされました。しかしこれだけではありません。教会も皆さんも私も、神様から遣わされているのです。私たちは、同じことを宣べ伝えるために、聖霊に満たされているのです。神の子一人ひとりが聖霊の油を注がれ、同じことを宣べ伝えるために神様によってこの世に遣わされているのです。具体的に言えば、私たちの言行を通して、イエス様の愛が人々に理解されるようにする、ということです。教会の中にいるなら、失意にいる人は慰められます。教会の中にいるなら、不運な人や不利な立場にいる人は無視されることなく、助けを受けられます。泣いている人は慰めを受けます。弱い人も慰めを受けるのです。

特に大切なことがあります。それは赦しです。いざこざ、悪感情、確執が何年も続いているなら、どうかそれらを終わらせてください。互いに和解しましょう。

まとめ

ルカによる福音書 4章 21～22節

そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。皆はイエスを褒め、その口から出て来る恵みの言葉に驚いて言った。「この人はヨセフの子ではないか。」

イエス様は人々を悪から救い出そうとしてくださいます。イエス様は人々に救いを宣べ伝えるため、使徒をお遣わしになりました。そして、ご自分の愛、真理、恵みを人々に証しするため、私たちをお遣わしになります。

教役職、女性、聖書

何を、という問題は結論が出ました。今度は、誰が、という問題にとりかかる番です。〔教役者の概念改め〕教役職の概念を詳しく解説することも、2021年に取り組むべき事柄でした。その一部の答えは出ました。そして残りの作業の行程もはっきりしました。



教役職の概念を包括的に策定する取り組みは、2014年から行われています。これまでの成果は、教役職の概念の神学的基盤を、キリストに二重の本質が備わるという教義に置くことから、2019年の聖霊降臨祭〔ペンテコステ〕時点で教役職を三つの職階に集中させたところまで、多岐にわたります。

さて、「何を」という問題の答えが出たところで、次は「誰が」という問題です。ジャン＝ルーク・シュナイダー主使徒は、2014年の新使徒教会国際大会ですでにこの点を明らかにしています。「男性が足りないから、あなたたち女性が説教する必要がある」という観点からこの問題に取り組むことは、良い出発点とは言えません。女性男性という問題以外にも、「信徒は何を受け入れるのか」という問題を考える必要があります。

男性と女性は平等

毎年恒例のインタビューでは、この審議がどのように進んでいるかを説明しています。従って、意思決定の過程では、「神様はどうお考えか」、「聖書では何と書いてあるか」、「教会は何を言っているか」、「地域文化における考え方は」という基本的な質問に答えるように努めています。

一つ目の問題、すなわち神様の御旨については、すでに天地創造に関する聖書の記述に基づいて答えが出ています。これは、2020年11月の教区使徒会議で議論されたもので、その

後、2021年3月に「神のかたちに造られた男と女」というテーマで教理論文が発表されています。この論文は日本語版「コミュニティ」2021年第9号及び第11号に翻訳が掲載されています。この論文の要約は、以下の通りです。

- 女性と男性は神のかたちに等しく造られている。両者は平等であり、相互に依存し合っている。両者は同じ性質、同じ尊厳を備える。
- 女性と男性は、被造物を保護しそれを治めることについて、平等の尺度で召されている。神はこの使命をお与えになる際、彼らが治めたり活動したりする地域と異なる地域の統治保護をお命じになったわけではない。
- 女性と男性が果たすべき義務については、人間社会などの範囲における社会的政治的發展に応じて、様々に理解されるものである。

著者より内容が優先

二つ目の問題、すなわちさらに詳細にわたる聖書の記述の扱いについては、「イエスが使徒職を男性だけにお召しになったのはなぜか」ということと、「初期キリスト教の教会は、例えば牧会書簡の中で、この問題をどう考えているか」という二つの面があります。

2021年11月、新使徒教会はやはりこうした背景において、つまり聖書を解釈するための基準として、自らの立ち位置を明らかにしました。従って、霊の権限を与えるのは著者の名前ではなく、書物の内容である、ということです。

この問題に対する答えは以下の通りです。

- 聖書の著者は事実上、神である。聖書の書物が持つ権威は、使徒・預言者に関わらず、神からの鼓舞に基づくものであり、著者によって左右されるものではない。
- 従って、ある文言が特定の著者に由来するかどうかという積義的な結論は、その文言が持つ権威とは全く関係がない。
- 使徒職による宣教の権限は、個々の積義上の問題の解決に資するものではない。教会の教えや宣教内容の純粋性を確

実なものとするために与えられるものである。

周囲に左右されず、自らの歩調で

はっきりしてしていることがあります。教会の指導者は、ある勢力から、あるいは社会情勢から、特定の決断をするような圧力を受けません。最近の地区使徒会議で主使徒は次のように述べています。「この問題はあまりにも重要ですから、急いんだり、社会動向だけを考慮したりして対処することはできません。時間をかけます。私たちは新使徒教会全体のために決断するのであって、何らかの勢力のために決断するのではありません。」

その中で、主使徒は過去数十年の大きな発展、とりわけ、リチャルト・フェア主使徒による教会を広く世間に理解してもらうための働きかけと、後継者ヴィルヘルム・レーバー主使徒による他教派の洗礼承認に触れました。「これらには、数年の月日を要したのです！」と現職の主使徒は総括しました。

現在の意思決定過程にとって重要な点が一つあります。広報活動において、教会はこれまで以上に自らを開放しています。今回は、教会のメディアが最初からその動向を監視し、興味を持つすべての関係者と詳細に情報共有することができたのです。

会衆の中で会衆のために

「キリストにあって共に」という2022年の標語には、実用的な意味合いがあります。「牧会は、会衆のみんながすべき務めだからです。」ユルク・ツビンデン教区使徒（スイス）はこう述べています。

私の担当する教区では、今年に入ってから、牧会に集中的に取り組んでいます。牧会は教役者だけでなく、会衆全体の務めであることを自覚するようになってきました。

そして、この取り組みにぴったりな2022年の標語「キリストにあって共に」を、主使徒からいただいたのです。私たちは何かをしたいのです。会衆の中で、会衆のために、孤軍奮闘するのではなく、共に、一緒に行動したいのです。キリストは「私なしにはあなたがたは何もできない」と言われました。私はぶどうの木、あなたがたは枝である」という彼の言葉は、会衆で行われるすべての牧会活動に道をつけるものです。「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。人が私につながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」。(ヨハネ 15:5)。「キリストにあって共に働く」とは、与え、もらい、隣人を受け入れ、分裂や別離の原因となり得るものすべてに打ち勝つことです。互いに学び合い、祈り合うこともその一環です。キリストに始まるだけでなく、キリストを待ち望み、キリストを慕い、キリストにとどまるなら、すばらしい「実り」が現されます。

牧会は会衆として取り組む仕事です。つまり「お互いにお互いの重荷を負う」ということです。そのための力と忍耐力は、キリストとの親密に交わることから生まれます。このよ

うにして、会衆はキリストの再臨に共に備えます。使徒パウロが言ったように、新しい被造物は次第に形になって行くのです。「だから、誰でもキリストにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去り、まさに新しいものが生じたのです」(二コリ 5:17)。「新しい被造物」は成長・開花していきます。

古いものが過ぎ去り、新しいものが育っているならば、もはや自分自身や自分の欲望や考え方に目を向けたり、自分の習慣や情熱のままに人生を歩んだりするのではなく、隣人や兄弟姉妹、そして彼らが必要とすることに目を注ぎます。そして、「信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめ」ます(ヘブ 12:2)。

使徒パウロがコロサイの信徒に宛てた手紙には次のように書かれています。「あなたがたは、このように、主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。キリストの内に根を下ろし、その上に建てられ、教えられたとおりの信仰によって強められ、溢れるばかりに感謝しなさい」(コロ 2:6、7)。

この勧めの言葉に進んで従いましょう！

(2022年2月7日 nac.today より)

手本から学ぶ

態度は行動に影響を与えます。「イエス・キリストを手本としたいものです」とミヒャエル・エーリツヒと教区使徒（新使徒教会南ドイツ教区）は言います。

フィリピの信徒への手紙2章5節には次のように書かれています。「互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにも見られるものです。」同じ行為でも、異なる態度に基づくことがあります。例えば、カインとアベルは献げ物をしましたが、アベルの献げ物は神様を喜ばせることができたでしょう。カインの献げ物は神様のお気に召しませんでした（創4:3以下）。二人が別々の感情を抱いた原因は、これにあります。

イエス様は、行動についての問題と様々な態度について、よく知られた易しいお話をういて言及されました。自分の心の中を良く知ることの大切さを、人々に理解させようとなさったのです。

- ファリサイ派の人と徴税人のたとえ話を通して、「神様は、自分のやった業績におごらず、謙虚な人に恵みをくださる」と説かれました（ルカ18:9-14）。
- 種蒔く人のたとえ話を通して、神様を畏れる心があることで、御言葉を理解しそれを受け入れることができることを説かれました（マタ18:15）。
- 赦さない僕しもべのたとえ話を通して、隣人を思いやることによって、はじめて自分も恵みがいただけることを、はっきりと説かれました（マタ18:21-35）。

手本は他にもあります。

2022年の標語を考えましょう。「キリストにあって共に」は、主との交わりを自覚し、私たちの内面を主と調和させることを狙いとしています。これを成し遂げる最善の方法は、キリストを手本とすることです。水と御霊による再生を通して、これに必要な条件が整います。

イエス・キリストの行動から学び取ることのできる行動があります。

- 人々の失望や貧困に、見て見ぬふりをなさいませんでした。困っている人への思いやりは、私たちにも必要です。
- イエス・キリストは人々に対して愛がありました。多くの人がイエス様のところに来て、救いを求めました。その時誰にも「あんたに構ってられない」とはおっしゃいませんでした。人々のために祈り、時間を作り、実践的な支援をしてあげましょう。そうすることによって、神様と隣人を愛することができるのです。
- 御子は謙虚でした。弟子の前に膝をかかめることもいとわれませんでした（ヨハ13:1以下）。私たちも、主の御前で謙虚になり、人々の前におごらないようにしましょう。進んで仕え、犠牲を献げましょう。（2022年2月22日 nac.today より）

サクラメント (43) :

洗礼以上のもの？

はっきりしていることがあります。それは「洗礼と聖霊の賜物を授与することは密接につながっています。ただ、どうつながっているのでしょうか。新約聖書が直接その答えをいくつか提供しています。しかしその答えが必ずしも一致しているわけではないのです。

イエス様ご自身が明確にされました。「誰でも水と霊とから生まれなければ、神の国に入ることはできない」（ヨハ3:5）。ですからこれは必ず必要なことです。「再生の洗い」（テトス3:5）つまり洗礼が、悔い改めを認定するものとしてだ

けに用いていたバプテスマのヨハネから、繰り返し不可能な行為として継承されたことは、極めて論理的です。しかし、「聖霊により新たにされ」ることはどのように行われるのでしょうか。

受動と能動

信徒はどのようにして聖霊の賜物を受け取るようになるのでしょうか。自然発生的な出来事なののでしょうか。それとも意図的な行為なののでしょうか。聖書はその両方の可能性を認めています。

ヨルダン川でイエス様が洗礼を受けられた後に聖霊が降臨されたという大きな事例は、エルサレムでのペンテコステ〔聖霊降臨〕という大きな出来事や、カイサリアの百人隊長コルネリウスの家での出来事のように、人間の介入なしに起こったものです。特にペンテコステとコルネリウスの例では、まずその場にいた人に聖霊が降り、その後バプテスマを受けました。

しかし、洗礼に関する他の記述では、聖霊について明確に言及されていないか、聖霊の来臨が人間の行為に関連しています。そしてその行為は、観察者が原因と結果としてわかるように、はっきりと行われています。魔術師シモンは、使徒の働きで聖霊が与えられたことを察知して、この力をカネで買おうとします。

第一幕と第二幕

洗礼を授けることは、洗礼の完成形なののでしょうか。それとも、第二幕があるのでしょうか。聖書では、その両方を信じることを認めています。

例えば、ペトロはペンテコステの説教の中で、まず洗礼を受けるように勧め、次のように言っています。「そうすれば、聖霊の賜物を受け取らう」（使徒 2:38）。この表現では、洗礼と聖霊の授与が同時に行われているように受け止めることができます。

しかしそのペトロが、未完成のことを完成させるために、ヨ

ハネと一緒に遣わされるのです。フィリポは魔術師シモンの元信者に洗礼を授けていました。しかし「人々は主イエスの名によって洗礼（バプテスマ）を受けていただけで、聖霊はまだ誰の上にも降っていなかった」（使徒 8:16）。こうした状況が変化したのは、使徒が活動するようになってからです。

しぐさとしるし

そしてペトロとヨハネはサマリアで何をしたのでしょうか。パウロがエフェソにいたヨハネの弟子たちにしたように、洗礼を受けた人々に手を置いたのです。これは、新約聖書が聖霊の授与と関連付けている儀礼です。

確かにペトロはコルネリウスの家で、神様がナザレのイエス様にどうやって聖霊を注がれたか(使徒 10:38)を説きました。しかし、聖書では、洗礼の際に油注ぎを行うことには触れていません。

ですからこの油注ぎについては --- エフェソの信徒への手紙 1章 13 節に書かれている御霊の証印と同様に --- 一つの比喻と理解すべきです。古代において証印は、所有者への帰属とその結果としての保護を示すものでした。

自然発生的なものか、意図的な行為か、一幕だけか二幕あるのか、証印か油注ぎか、バプテスマに関するこれらの側面はそれぞれ新約聖書に複数回登場します。例えば、エチオピアの宦官、リディア、フィリピの看守、コリントの会堂長のクリスポなど、ほとんどの洗礼に関する記録では、聖霊には言及されていません。曖昧さやギャップがあるからこそ、初代教会で儀式が発展する余地があるのです。(2021年10月7日 nac.today より)



ユルク・ツヴィンデン教区使徒



ミヒャエル・エーリッヒ教区使徒

コミュニティ

2022(令和4)年第7号・日本新使徒教会発行

日本小教区主任牧師：門平 彰弘 (E-mail: kadohira.nac@icloud.com)

多摩教会 〒206-0014 東京都多摩市乞田 1320

Tel. 042-374-0070 (日本小教区本部)

松山教会 〒799-2468 愛媛県松山市小川甲 110 番地 17

Tel. & Fax. 089-994-3556

新使徒教会国際本部：https://www.nac.org/

新使徒教会西太平洋教区：https://www.nacwesternpacific.org/

新使徒教会日本小教区：http://www.nac-japan.org/

監修：高島 健郎 / 編集担当：松岡 利恭